

地域と未来を繋ぐ安定した経営を目指す農業プラン

大山町

上田 陽介

はじめに

私は平成20年に就農しました。

現在は両親がいますが、高齢でこれから先何年も働けるとは限らず、なるべく両親には負担をかけたくないという思いがあり、収穫作業以外は自分ひとりでを行いブロッコリーを柱とした経営を目指しています。

そのため自分の身体が壊れてしまったら自分の生活はもとより、家族の生活自体もできなくなるので機械化による省力化が必要であると思いそのために、就農時の補助事業を活用して乗用管理機や全自動定植機を導入してきました。

就農して数年がたち、技術が身についてきたことで育苗から栽培管理までスムーズにできるようになってきました。

作業の省力化を考え、気持ち、時間に余裕を持って規模拡大に取り組み現在約5.5haの面積となり、平成26年からエコファーマーを取得して生産部で取り組んでいるブランド「きらきらみどり」での出荷にも取り組んでいます。

また、平成24年からは農福連携による加工用に向けた原料供給のために福祉作業所と連携しており、規模拡大による穫り遅れが生じた場合の対策にも試験的にですが取り組んでいます。

しかし、現在の環境ではこれ以上の規模拡大は難しい状況で、

今後規模拡大をしていくには、機械の整備だけではなく、収穫量も増えてくるので作業場の増築等が必要だと考えております。

現在、大きく分けて3つの地域で農地を借り、1年を通してブロッコリーを栽培している中で、各地域で農地をさらに受けて欲しいといった声もあり、地域の担い手としてやっていきたい自覚も生まれてきました。

しかし、地域の担い手としてやっていくには、これから先家族経営では限界があると思い、将来的には、法人化を検討する必要もあるのではないかと考えています。

そして、この先の農業発展、地域発展のために現時点から作業環境を少しずつ整えていきたいと思えます。

現在の経営概要
労働力

	H25「実績」
本人 歳	300日
母 歳	100日
雇用 2人	合計350時間

※アルバイトは収穫が集中する5. 6月と10. 11月を中心に2人雇用

経営面積

	H25「実績」
初夏ブロックリー	100a
秋冬ブロックリー	400a
キャベツ	40a
カリフラワー	5a
合計	545a

主な機械・施設の概要

	台数	能力・面積	導入年次
ビニールハウス	1棟	6.5*20m	H21
ビニールハウス	1棟	4*15m	H23
ビニールハウス	1棟	8*27m	H24
乗用管理機	1台		H22
全自動移植機	1台		H22
プロキヤス	1台	200ℓ	H22
灌水装備	一式		H22
トラクター	1台	34ps	H23
防除機	1台		H23
草刈機	1台		H23
フレールモアー	1台	180cm	H25
トラック	1台	2t積	H25

現在の課題と対策

1・作業場

課題

- ・ 生産部でGAPに取り組んでおり作業場の中に資材、農薬や農業機械の保管場所、出荷作業のスペースを分けて設けているが、リスク分散をしっかりと行ったGAPに取り組むには保管場所と作業スペースは区分する必要がある。
- ・ 現在の作業場は機械等の収納も一緒になっており、ブロッコリーの箱詰め作業が50ケース以上になるとスペースがいっぱいになってしまうため、作業効率がとても悪く一日の処理量が限られてしまう。
また、収穫時期のピークになると、ブロッコリー、キャベツ、カリフラワーの収穫が重なってしまい、収穫調整時の箱の置き場もなく、その都度機械を外に出してスペースを確保しないといけないため非常に苦勞している。
- ・ 機械を出してスペースを確保しても置き場が限られており、現状以上の規模や品目を拡大することができない。また作業の効率を考えると毎回機械を動かすことが作業時間のロスにつながっている

課題に対する改善と効果

- ・ 新たな作業場を構築する事により、箱詰め専用の作業場とし、既存の作業場を機械保管のスペースとして使用。さらに既存作業場の空きスペースに保管庫を設け農薬を管理し、新たな作業場の二階に資材を分別して管理することにより、出荷物への農薬等の異物混入を防ぐことができる。
- ・ 作業スペースが広がることで箱詰めの効率が格段に良くなり一日の処理量を増やすことができる。また処理量が増えてもスペースがあるので保管することが可能となり規模拡大ができるようになる。
- ・ 作業場にシャッターを取り付ける事により、収穫した生産物を日光、風から遮断でき品質低下を防ぐことができる。
- ・ 作業スペースと休憩スペースを区分するために、作業場の一部に作業員の休憩、作業の打ち合わせ場所として部屋を設け、増員予定の雇用にも対応できる。

2・ツインモアー

課題

- ・ 地区の田は法面がとて長く、草刈面積が大きいので作業時間がとてかかる。
- ・ 草刈に対する労力が大きいため、4月～10月までの間草刈りを定期的に行うべきだが農繁期にはブロッコリーの作業を優先し、どうしても草刈りは後回しの作業になってしまう。
- ・ 草刈りが遅れると、雑草が病害虫の発生源となる可能性があり、周辺の作物にも迷惑をかけてしまう恐れがある。
- ・ 夏場の草刈りは身体的負担が大きく、日中に行うと熱中症の危険もあり、朝夕の限られた時間でしか行うことができない。
- ・ 地区は高齢の人が多く、よく草刈りの作業を頼まれるが手が回らず断ざるをえない。

課題に対する改善と効果

- ・ 作業効率を上げ、農繁期でも定期的に草刈りを行うためにツインモアーを導入する。
- ・ 定期的な草刈りによって病害虫を極力防ぐことができるので収量の増加が見込まれる。
- ・ ツインモアーはトラクターに乗ったまま作業が可能となるので夏場作業の疲労を軽減でき熱中症も防げるため、作業効率が上がる。
- ・ 作業効率がよくなれば、地域の草刈り作業を受託して行えるので地域貢献もでき、耕作放棄地を増やさないためにも導入する。

将来の展望

作業場を整備することで、規模拡大に取り組めるようになるが、個人では限界があるので雇用を考えた経営に取り組み、最終的には法人化を視野に入れた取り組みをしていき、耕作放棄地を出さないための受け手となる。

地区で若手が増えてきており、連携を持つことで個々の経営に活かすことができている。情報を共有することでサポートできる体制の重要性を感じているので地域のリーダーとして連携の音頭をとっていくことや、さらに就農する人を増やしていくために新規就農者等の若手を育成し、地域の農業の発展に貢献していきたい。

そのために大山町で就農希望者への研修等の支援として設立されたアグリマイスター協議会の受入先となるべくアグリマイスターとして認定を取得しており、少しでも就農を考える人の後押しをしていきたい。

将来の経営概要 労働計画

	H25「実績」	H26	H27	H28	H29	H30
本人 歳	300日	300日	300日	300日	300日	300日
母 歳	100日	100日	100日	100日	100日	100日
アルバイト 2人	350時間	350時間	350時間	500時間	600時間	700時間

生産計画

	H25「実績」	H26	H27	H28	H29	H30
初夏ブロッコリー	100a	100a	100a	100a	100a	140a
(反収) 指数	100	101	101	101	109	109
秋冬ブロッコリー	400a	400a	400a	450a	500a	500a
(反収) 指数	100	108	108	115	115	123
キャベツ	40a	40a	50a	50a	50a	60a
(反収) 指数	100	104	104	104	104	104
カリフラワー	5a	5a	5a	5a	5a	5a
(反収) 指数	100	94	94	94	94	94
合計	545a	545a	555a	605a	655a	705a

事業導入計画

	H27	H28	H29	事業主体
ツインモアー	○			県1/3町1/6本人1/2
作業場(2階建×47㎡)	○			県1/3町1/6本人1/2

事業導入計画

(税抜き)

	事業費	補助額	自己負担
ツインモアー	1,200千円	500千円	700千円
作業場	8,000千円	4,000千円	4,000千円
計	9,200千円	4,500千円	4,700千円

自己負担部分についてはスーパーL資金を活用予定